

---

# Don't Cry

二葉一葉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Don't Cry

### 【コード】

N9474J

### 【作者名】

二葉一葉

### 【あらすじ】

明日から何をしよう。ひとりになって考える。また、起き上がるために。

明日から何をしよう。

1LDKの50？ある部屋で、あたしは絨毯に横たわる。キリムの絨毯は色鮮やかでモノトーンの部屋に華を彩る。体まるごと沈む柔らかかなソファより、あたしは絨毯に寝そべるのが好きだった。

40インチのテレビは、大きすぎんじやないかと心配したけど、今となつてはもう少し大きくてもよかったとも思う。

音響に拘りはなかったけど、映画をよく観るあたしに勧められたステレオはとても満足してる。

さんざん迷って買ったローテーブルは、使いづらかった。ちょっと後悔。

寝そべったままあたしはティーカップに手を伸ばす。

ハーブティに凝って、ハーブが入ったたくさんのガラスの容器はダイニングにインテリア化してる。

冷めたジャスミンティの香りと渋みが口の中に広がった。

ティーショップ、開きなよ。と、言ったのは誰だっけ？

料理は出来ないこともないけど、上手じゃない。

調味料がアバウトすぎて、いつも味付けがイマイチだと自分でも思う。

お袋の味には、ほど遠い。

朝はトーストとヨーグルトと、カフェオレ。

自慢じゃないけど、あたしの作るカフェオレは、美味しい。

ミルクを小鍋で温めて、そこにインスタントコーヒーを入れる。だたそれだけ、だけ。

お砂糖の代わりに甘いお菓子。  
チヨコレート、クッキー、ケーキにアイスクリーム。  
食べ過ぎて、後悔する。

慌てて運動して、ストレッチとなんちゃってヨガをする。

運動は昔から苦手だったけど、嫌いじゃなかった。

出来ないことがかっこ悪かったあの頃は、嫌いだったりもしたけど、  
ようやく最近、出来ないけど嫌いじゃないなって思えた。  
出来なくても、楽しい。

いまの自分がああの頃の自分だったら、少しは体育の時間も有意義な  
ものなってただろうな。

ああの頃の自分がいまのあたしだったら？

きつと簡単に泣いて、すぐ誰かに助けを求めるだろうな。

泣くことも難しくなって、助けを求める誰かを思い浮かべることがも  
できなくて、あたしは笑った。

ああの頃、思い描いていたいまの自分は、この自分だったんだろうか。  
お腹が痛い。

シクシクと泣いてるみたい。

音楽くらいかけようかな。だけど、起き上がるのが億劫だ。

口ずさめる歌もない。

目を閉じて聞こえてくるのは、ああの人の声。

「別れよう。」

昨日彼があたしに告げた言葉を口にしてみた。

「別れよう。」と、また口にして、そう言った彼の顔を思い出す。

あんな顔、初めて見た。

「やっぱりオレたち、戻れないよ。何度も直そって、元通りになる

うと頑張ってきたけど・・・ダメなんだ。」

一言一句、間違えないように口にする。

「本当にゴメン。オレが、全部悪いんだ。」

泣きそうな顔だったな。泣かなかったけど。

そつと目を開けて、ローテーブルに置かれて紙を見やる。

広げられたまま置かれているそれは、『離婚届』ってやつだ。

あの人の角張った大きな字が透けて見える。

昨日見せたあの顔とは似合わない、字だな。

婚姻届は、一緒に書いて、一緒に出しに行ったっけ。

あれは、もう、3年前のこと。

ブイン、と携帯が震える音が聞こえた。

震えた回数は3回、メールだ。

誰だろう？

いいや。

いまは、いい。

あたしはまた、目を閉じる。

あの人の言葉に、あたしは何と言ったんだっけ。

お母さんが笑ってあたしを呼んでいる。

息が切れて両足が重いけど、なんだか嬉しくて、あたしは走り寄った。

「頑張ったわねー！すごいじゃない！」

「うん！」

「お腹、減ったでしょ？ほら、おにぎり作ったから、食べなさい。」

「うん！」

大きなお弁当箱にたくさんのおにぎり。

あたしは両手に持って、がぶりつく。

お母さんは笑ってる。

「頑張った、頑張った。えらい、えらい。」

うん、お母さん。

おにぎり食べたら、また、頑張るね。

見ててね。

また、褒めてね。

また、笑ってね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9474j/>

---

Don't Cry

2010年10月20日18時09分発行